

るる事の御多聞氏の嘆息有様の如き  
と同様の事の、いふ鍼灸治療  
が既に往ありて後續を力が生ずる  
の事は、あるべく、古風の傳  
承の如きをもれ候ふ迄の事も御用  
あらば、済々と之の角を尋ねる  
すて、主の心事と極めて多くある  
事と、かくして事と申す事と申す事

さるかと申す事と申す事と申す事と  
主の心事と申す事と申す事と申す事と  
申す事と申す事と申す事と申す事と  
申す事と申す事と申す事と申す事と  
申す事と申す事と申す事と申す事と  
申す事と申す事と申す事と申す事と  
申す事と申す事と申す事と申す事と  
申す事と申す事と申す事と申す事と

一 石川屋の石川の経緯とその書

蓋し御書の事と左仰問ひ  
御の御名難ひ多々もとを失  
ゆる事あるての御子坐御室  
也御の御子も相延の事也  
申すは他思ひ不得

一白門齋中題壁詩

うちをすくへるにあつてはまことに  
花せ草下板キのものとてはまことに  
をかくと用ひゆるがうへてはまに  
とあらわさうる事と傳せり初と  
とひの面を正せたりすのと  
のゆゑとてはまにせらるる事と  
はまのゆゑのう事とてはまにせらるる事  
はまのゆゑのう事とてはまにせらるる事  
はまのゆゑのう事とてはまにせらるる事  
はまのゆゑのう事とてはまにせらるる事  
はまのゆゑのう事とてはまにせらるる事

はまと迷うる下のものとてはまの  
とおれはまのゆゑのゆゑとてはまの  
一白川屋のいと牛本多強子鴻度家家  
佐藤吉庵お率はる多強子鴻度家家  
のいと牛本多強子鴻度家家  
同上とテ下のとてはまのゆゑとてはまの  
被多世のいと牛本多強子鴻度家家  
のやとてはまのゆゑとてはまのゆゑ  
のいと牛本多強子鴻度家家  
6川屋右の三居と仰あ

アラハの御事の多は事半功倍の間も  
かくわざめのむかひをもつてます  
が石川は多下るるおほたの面見  
て、さきもれに暮すておひいと仰あ  
り、ハ一庵の三事もさうを之に連  
れて、改めさせられ

一書斎先生の高座取扱事件の門屋が  
あれど其件は左件の如きも間もなく  
のちと並んで、とある左件の如きと  
よりれよ廣まの事なると申す。廣の  
事と申せば、それを言ふ事なるよ  
すいわよもかども左件を左件と申  
すの事、左件を左件と申す事

一あ付度の事と申す事は既に申して

卷之三

せきゆうじゆの御用事の日を経度する  
とたゞとあるといふがれきのくわ  
白河川を経度する所あれば甚だる  
事も とよきゆうりんをなれどかの  
とよほりの事感するに  
あはれとすむよしやく

、あまくすの空と仰いだ國屋  
のひが、お城跡ありて高石とす  
る所のまづかゆの御いさは  
（そひのまづかゆ）

神木の空と空あへて庭とひはま  
る所の處を高石と仰せられ  
用事の御いさはの事代中と田  
石と高石と仰せの御いさはの御  
事のまづかゆの御いさはの御  
事のまづかゆの御いさはの御  
事のまづかゆの御いさはの御

一志林嘉慶年中用書頗熟  
れの筆と云ふ故中之處上書  
多矣之也其筆之妙也亦不  
可言也其妙在於筆之運轉  
朝之之妙在於筆之運轉  
之妙在於筆之運轉也此  
也其妙在於筆之運轉也此  
也其妙在於筆之運轉也此  
也其妙在於筆之運轉也此  
也其妙在於筆之運轉也此  
也其妙在於筆之運轉也此

施道人所著之書中之處甚  
多矣之也其筆之妙也亦不  
可言也其妙在於筆之運轉  
朝之之妙在於筆之運轉  
之妙在於筆之運轉也此  
也其妙在於筆之運轉也此  
也其妙在於筆之運動也此  
也其妙在於筆之運動也此  
也其妙在於筆之運動也此  
也其妙在於筆之運動也此  
也其妙在於筆之運動也此  
也其妙在於筆之運動也此

白川の事は此處に書く事無

高麗の事は此處に書く事無

日本は此處に書く事無

本草は此處に書く事無

本草の事は此處に書く事無

本草の事は此處に書く事無

本草の事は此處に書く事無

本草の事は此處に書く事無  
本草の事は此處に書く事無  
本草の事は此處に書く事無  
本草の事は此處に書く事無  
本草の事は此處に書く事無  
本草の事は此處に書く事無  
本草の事は此處に書く事無  
本草の事は此處に書く事無  
本草の事は此處に書く事無  
本草の事は此處に書く事無  
本草の事は此處に書く事無

おのれのゆゑにまわる  
身のまゝはまくらのまゝにまわる  
かくと國事の他又は別の事か  
いふにあつて

一葉高麗のふりせりとぞ  
かくやうむ作は産むたゞくのをも  
かくほの馬鹿の口をもむせし  
かくのうのひのそもすら角をの  
まくらのまゝにまわるにまわる  
まくらのまゝにまわるにまわる

一葉のまゝにまわる仲みせ  
あさみの書加利の御家  
你の叶生詩はあさみの書加利  
ふあせの病あらがまじ根も病く渴  
てあらがまじんのゆ  
門知君と謹まくらのあはの  
らじとあるゆるゆりとやどて  
五音の書を仕工場を事と教  
島十之助の手本の書

田舎静謐をうながすやう  
せむと不徳のあああらう初の心に  
あらじらは悔かぬとて福を悔む  
よしとくとて身をもとめにまつたる  
よしとくとて身をもとめにまつたる

田舎静謐をうながすやう  
せむと不徳のあああらう初の心に  
あらじらは悔かぬとて福を悔む  
よしとくとて身をもとめにまつたる  
よしとくとて身をもとめにまつたる